

「全日本聴導犬ユーザーの会新聞」

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会

News Letter 創刊号



〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村7030-1 (福)日本聴導犬協会気付け「全日本聴導犬ユーザーの会」

発行人：岸本宗也
編集人：村澤久実子、
お手伝い：(福)日本聴導犬協会
スタッフ
写真：MAYUMI

無断転載・転用厳禁です
E-mail: iadpinashiya@hearingdog.or.jp
http://www.hearingdogpartners.com
FAX: 0265-85-5088
全ての著作権は「全日本聴導犬ユーザーの会」に帰属します

聴導犬は
聴覚障がい者自身で選ぶ

全日本聴導犬ユーザーの会 会長
聴導犬しん ユザー 岸本宗也



全日本聴導犬ユーザーの会を2002年8月に発足しました。当時、身体障害者補助犬法の施行により、補助犬の認定試験制度はこのようになるのが、また行政による補助犬育成団体の指定もあると聞き、ユーザーの影響は、さまざまな疑問がありました。補助犬の海外事情に詳しい日本聴導犬協会、有馬会長の勧めもあり、聴導犬ユーザー同士での情報交換の必要性を確信して、当会を他の聴導犬ユーザーと共に創設

しました。

身体障害者補助犬法は世界でもめずらしい法律です。他の国では、米国のADA法など障がい者の差別撤廃法つまり人権保護の中で、障がいのある人たちの人権として、補助犬を保障します。

疑問の解答が得られないまま、創立から2年目の2004年に第1回「国際アシスタンス・ドッグ・パートナーズ会議」が松本で世界最大の補助犬ユーザーの会である IADDP の会長 Ed Earnes 博士と出会いました。その後、2009年にロンドンの ADI 国際総会で再会しました。こちらの折にも、手話通訳と英語通訳の段階を経りましたが、James 博士と共に私が信じるのは

補助犬の目的が私たちが障がいのある者たちの自立と社会参加ならば、それにかかわるすべての選択についても行政や医療関係者に頼るのではなく、自分自身で調べ、納得した上で、共に生きる補助犬を選ぶか否かを決めるのは、聴覚障がい者自身でなければなりません。聴導犬と、24時間体制で聴覚障がい者の命を守るパートナーの存在をもつ社会に知らしめ、聴覚障がい者自身が聴導犬を「生きた補助者」として選ぶ

生活に生かせる環境整備をしなければなりません。

全日本聴導犬ユーザーの会の正規会員は、聴導犬ユーザーと元聴導犬ユーザーです。聴導犬が生活で必要な音を教えてくれることで、心からの安全と安心が獲得できました。さらに、同伴する聴導犬からは、さまざまな環境で出会うバリアを打ち砕くための勇気さえ与えてくれます。聴導犬との関係でも、すばらしい「ミューター」となります。性格や人生までも変えてくれたというユーザーさえあります。私たちが日々実感する聴導犬とのすばらしい出会いを、聴導犬ユーザーである私たちがサポートしてきたいのです。

「全日本聴導犬ユーザーの会」の歴史

- ・2002年4月19日：日本初！公的乗り物（JR西日本）同伴試験に聴導犬みかん（ユーザーは理事・岸本淑子）が合格。聴導犬の名称が、全国紙表紙で紹介された
- ・2002年8月24日：当会を長野県で発足
- ・2002年9月24日：身体障害者補助犬法施行後をにらみ補助犬育成団体と「全日本聴導犬ユーザーの会」が中心となり厚生労働省の認定団体（社会福祉法人など）の「資産要件引き下げ」陳情のために、82,447名の署名を提出
- ・2004年10月9日～3日間：日本初の第1回「国際アシスタンス・ドッグ・パートナーズ会議」が松本に協力。以後、聴導犬育成団体と協力的普及啓発のデモ講演会を積極的に行っている

聴導犬と安心して暮らせる
環境整備をユーザーの協力で

全日本聴導犬ユーザーの会事務局
聴導犬かるこユーザー 村澤久美子



当会の発足は、2000年8月ですが、会長岸本宗也氏が就任され、役員の新設がされた。2010年から日本聴導犬協会のサポートにより、ホームページの開設、会報誌の発行など活動を本格化で「JANON」になりました。

私は、2010年3月に認定されたばかりで、まだまだ新米の聴導犬ユーザーですが、事務局をおおせじかりました。実体験として、2002年から施行された身体障害者補助犬法認定試験制度が規定されたのは、2003年から後も、同伴拒否に悩みます。聴導犬の名前も知る方は、それほど多くありません。

私たちユーザーが自由に行うことも行けるような環境整備はまだできていないのです。ユーザーに代わって日本聴導犬協会や同伴拒否の店や場所に細かな指導をしています。啓発の冊子なども創っていますが、時には補助犬にまったく無理解で行政に指導をしいただかなくてはならない店もあります。でも、担当者の就労時間外や土日には対応してもらえません。24時間体制で指導を行える場所が必要です。民間に委託するなど方法を行政も考えてほしいと思います。後、続く聴導犬ユーザーのためにも、他のユーザーの方々と話し合う機会を設け、いっしょに行政に働きかけなければなりません。聴導犬を公的な場に同伴できる権利を守るための「ユーザー同士での結束」が必要です。聴導犬ユーザーたちが、聴導犬という生きた補助者と共に、安心して暮らせる環境整備を進めたいと思います。

生活に安心をもたらす聴導犬

聴導犬もりこユーザー 宝田 若江

聴覚障がい者は、障がいが見えに現れないために、誤解を招くことが多くし

かも、音声による情報は得られませんが、特に緊急時の情報が得られないのは命にかかります。生活では不安がいっぱいで、でも、聴導犬もりちゃんと一緒にいるだけで、もりちゃんからいろいろな言葉を教えてもらえます。また、周囲の方からも、「聴覚障がい者」に対する自主的なお手伝いをしてもらえます。家の中や外でも、聞かえない人は聴導犬といっただけで安心した生活が送れます。私もとても助かっています。そしてアフターケアが徹底されるためにも日本聴導犬協会のような良心的な育成団体を自分で探すことを、お勧めします。



「お母さん、愛情をいっぱいありがとう。お母さんのことはいつも私が守るからね」もり

「全日本聴導犬ユーザーの会」規約では、会員は四種類とし、正会員により非営利活動を促進します

- (1)正会員: 聴導犬ユーザー及び元聴導犬ユーザー
- (2)賛助会員: 聴導犬ユーザーの家族または育成団体関係者のみなさま
- (3)協賛会員: 聴導犬ユーザーを支援する個人、団体、企業のみなさま
- (4)名誉会員: この団体に功労のあった方または学識経験者であり、理事会において名誉会員として推薦された個人または団体であり、顧問として理事会への参加と助言を行うことができる

附則

- 1. この規約はこの団体の成立の日から施行する
 - 2. この団体の設立当初の会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とし、毎年10月1日までに支払う。
 - (1)正会員 年会費 3,000円 入会金 3,000円
 - (2)賛助会員(個人および団体) 年会費 5,000円以上
 - (3)協賛会員(個人、企業及び団体) 年会費 5,000円以上
- 当会運営のために、ご寄付をお願いいたします。

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会

News Letter No. 2号



〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村7030-1 (福)日本聴導犬協会気付け「全日本聴導犬ユーザーの会」

発行人：岸本宗也
編集人：村澤久実子、
お手伝い：(福)日本聴導犬協会
スタッフ
写真：MAYUMI

無断転載・転用厳禁です
E-mail: iadpinashiya@hearingdog.or.jp
http://www.hearingdogpartners.com
FAX: 0265-85-5088
全ての著作権は「全日本聴導犬ユーザーの会」に帰属します

聴導犬しん君と
祖国 台湾での聴導犬普及に貢献

全日本聴導犬ユーザーの会 会長

聴導犬しん ユーザー 岸本宗也

6月26日～6月30日まで台湾国立屏東科技大学付設「工作犬訓練学校」(補助犬訓練学校)が台湾での聴導犬普及と聴導犬の国際認定のために、有馬もと博士(日本聴導犬協会会長)が招台されました。有馬会長は国際アシスタンスドッグ協会(ADI)の元理事であり、英国聴導犬協会とADIの2つの国際的な団体から聴導犬インストラクターの国際認定を受けています。有馬会長とMAYUMI訓練マネージャー、そして私・岸本宗也と聴導犬しんが同行しました。

聴導犬招台に新聞・TVが10社以上が殺到

痛癢人的耳朵 聽導犬來台 2011/06/28



這隻西施犬就是專程坐飛機來台的日本聽導犬。和國人比較熟悉的導盲犬不同，聽導犬需要訓練的是聽覺障礙、門鈴聲、水壺汽笛聲、嬰兒哭聲等各式各樣的聲音，只要有異常的聲音發出，牠就會立刻提醒主人。

聴導犬しん君にとっては、初の海外旅行。日本での検疫、3時間の空路、そして台湾への入国検疫と、長時間の移動でしたが、すばらしい落ち着きで、乗務員や空港関係者からも称賛されました。空港には大学側の聴導犬訓練士・林明勤さんが出迎え。バスで移動した桃園高鐵(新幹線駅)には、台湾の新聞社、テレビ局の取材が殺到しました。台湾では補助犬のための法律が成立していないので聴導犬同伴が、公共施設や電車・新幹線などでは認められていません。日本聴導犬協会から台湾大使館への事前のお願いや、屏東科技大学から台湾の内政省への働きかけで聴導犬同伴による公的乗り物への特別許可を得ました。徹底した報道のおかげもあり、台湾市民も快く聴導犬の同伴を認めてくれました。

大学で有馬会長の講演、しん君の聴導犬デモ。古源光学長と共に記者会見。陳副学長によるデザイナー交流会など、国境を超える協力では、大学の訓練士さん達との交流や相互助言が行われました。一番の目的である有馬会長による台湾第1号聴導犬のアーリー&ユーザーのアレックスの国際認定試験でしたが、外出の頻度が少ないこともあり、来年にもちこされました。最終日は、我が母校・台北市立啓聰学校で有馬会長と私の聴導犬講演としん君によるデモを開催。校友や母校の先生も集合し、約120人ほどの大歓迎を受けました。私が教職員時代の教え子もいてしん君のデモを見て驚き、聴導犬は聴覚障がい者に安心した日常生活をもたらすことが伝えられました。感動的な講演会でした。改めて、しん君は賢く、なんと素晴らしい聴導犬かと敬服しました。しん君同伴の訪台により成果が上げられたと心から満足です。担当のMAYUMIさんの配慮で聴導犬しん君が疲れないう、休息をとりながらの滞在。長旅での疲れを心配し、帰国後はゆっくり養生させました。



母校・台北での聴導犬デモ・講演



国立屏東科技大学校長と Dr 有馬と私

補助金の停止と
沖縄飛ゆえの移動の問題

全日本聴導犬ユーザーの会 理事
聴導犬まつコザー 上原麻奈未

島であるがゆえに、沖縄の補助犬ユーザーにはさまざまな問題があります。

コザーとの公的乗り物への同伴は認められていますが、「身体障害者補助犬法」により、補助犬の飛行機への客室への搭乗では、コザーが一緒なら可能です。しかし、「コザーの病気や死亡」。

2011年7月「補助犬の難病などによる大学病院等への入院」など、急務な理由があっても、訓練士による補助犬移動では、貨物室扱いなのです。一時、貨物室でのペット犬の死亡事故も多発し、コザーにとっては体の一部でもある補助犬を貨物室で運ばれるのは受け入れがたい状況です。ANA などに「何度も日本聴導犬協会では善処してほしい」と相談に行っていますが、「身体障害者補助犬法」前と同様に、改善してもらえません。さらに、沖縄県では補助犬支給金の補助金給付に対して県の予算がつかなくなりまして、理由は「予算」がなかったからだと思いますが、2012年度のために県の補助金担当窓口にも相談に行っても「予算がないので、申請も受け付けられない」の一点張り



沖縄第1号で唯一の聴導犬

でした。補助金は、その地域に聴導犬などの補助犬を支給してもらい、その後のアフターケア費用を考えると、育成団体にとってもコザーにとっても、なくては成らない補助です。聴導犬が聴覚障がい者に、24時間安全をもたらし存在なら、補助金についても車椅子同様につけるべきだと考えます。

聴導犬をめぐるさまざまな問題に、聴導犬ユーザーの会の心援と活動を求めています。団体、国は異なっても、結集が力になります。

全日本聴導犬ユーザーの会 事務局
聴導犬からコザー 村澤 久美子

2010年度は、第2回「国際アシスタンス・ドッグパートナーズ会議」兵庫（ADP）が開催され大会に参加させていただきました。海外からの聴導犬ユーザーも参加し、交流ができました。海外のコザーとの出会いに大きな感銘を受けました。今年9月

は日本聴導犬協会会長有馬もとの台湾の国立大学へのお招きに岸本会長と聴導犬しん君が同行し、国営放送など「社」で広報にされました。台湾の「学校」での講演でも約100名の「方々」の来訪をいただきました。毎年参加している全国ろうあ者大会



ユーザーは各地での講演会で活躍した。会場では、ロシア人の「方」に、ロシア語手話通訳を通じて聴導犬についてお伝えできました。団体や国は異なっても、同じ目的や問題をもつ同士が集まるのが力になります。聴導犬ユーザーのみならず、「全日本聴導犬ユーザーの会」に加入してください。詳しくは、村澤までお願い申し上げます。

9月21日（日）で佐賀県行ききました。今までない出来事が2つありました。1つは2日間の豪雨。2つ目は、他団体の聴導犬ユーザーとお話ができました。聴導犬とは会えませんでした。プース日本聴導犬協会（J）での「聴導犬」の説明とデモに多くの参加者が来てくださいました。会場では、ロシア人の「方」の方に、ロシア語手話通訳を通じて聴導犬についてお伝えできました。団体や国は異なっても、同じ目的や問題をもつ同士が集まるのが力になります。聴導犬ユーザーのみならず、「全日本聴導犬ユーザーの会」に加入してください。詳しくは、村澤までお願い申し上げます。

「全日本聴導犬ユーザーの会」の会員は
四種類とし、正会員により非営利活動を促進します

- (1)正会員：聴導犬ユーザー及び元聴導犬ユーザー
- (2)賛助会員：聴導犬ユーザーの家族または育成団体関係者のみなさま
- (3)協賛会員：聴導犬ユーザーを支援する個人、団体、企業のみならず
- (4)名誉会員：この団体に功労のあった方または学識経験者であり、理事会において名誉会員として推薦された個人または団体で、顧問として理事会への参加と助言を行うことができる。

附則

- 1.この規約はこの団体の成立の日から施行する
 - 2.この団体の設立当初の会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とし、毎年10月1日までに支払。
 - (1)正会員 年会費 3,000円 入会金 3,000円
 - (2)賛助会員(個人および団体) 年会費 5,000円以上
 - (3)協賛会員(個人、企業及び団体)年会費 5,000円以上
- 当会運営のために、ご寄付をお願いいたします。

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会

News Letter No.3号



〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村7030-1 (福)日本聴導犬協会気付け「全日本聴導犬ユーザーの会」

発行人：岸本宗也
編集人：村澤久実子、
お手伝い：(福)日本聴導犬協会
スタッフ
写真：MAYUMI

無断転載・転用厳禁です
E-mail: iadpinashiya@hearingdog.or.jp
http://www.hearingdogpartners.com
FAX: 0265-85-5088
全ての著作権は「全日本聴導犬ユーザーの会」に帰属します

入院先で一時面会、みかんちゃん



我が家では、みかんは、しん君となんでも一緒です。ご飯も一緒、おもちゃも同じ物が二つあるのです。が片方が咬み飽きると、交換

みかんは、人間でいえばだいたい八十歳。体にも支障が出てくる時期です。食欲もまだまだあり、表面的にはとても元気ですが、今、肺炎の治療と点滴を受け定期健診の結果では、悲しいことに異常値が出ています。しん君もみかんの体調がわかるのか、以前のようには快活に遊びを誘うこともありません。しん君がいてくれて、岸本家は精神的にも救われています。日本聴導犬協会とみかんの引退を相談し、後任の聴導犬について話し合った時、以前からみかんと仲が良かったしん君が来ることになりました。

みかんがくれた
いっぱいのお愛のおかげ

全日本聴導犬ユーザーの会 会長

聴導犬しんユーザー(岸本宗也)

聴導犬しん君が我が家に来てくれるまでの八年間、私たち夫婦を支えてくれた元聴導犬みかんは十三歳を迎えることができました。

し合ったり、本当の姉弟のように仲の良い二頭です。みかん一頭だけでも安心を得てどれほど癒されたかわかりませんが、一頭のむつまじい姿に我が家はさらに安らぎを得ています。



岸本宗也氏
聴導犬しん君

聴導犬の効用は五つあるといわれます。ひとつは、生活での音を伝えることで生活が便利になる点

二つ目は警報音などで、ユーザーが寝ていても起こしてくれて「避難」を即す「安全」と「安心」。

そして、三つめは天災や事故などのときに、周囲に聴覚障がいについて気づかせる「リスク(危機時)・コミュニケーション(意思の疎通役)」。

四つめはユーザーの孤独感や心を強く支えてくれる「相棒」としての存在。最後は、ユーザーと聴導犬との姿を見て、社会までも明るく、やさしくする力でしょう。

私たち夫婦もみかんやしん君がいてくれるからこそ、得られた物は限りなくあります。これから、みかんどのくらい一緒にいられるかわかりませんが、少しでも幸せに、楽しい時間を過ごせられるか。

みかんがくれたいっぱいのお愛情のおかげで、我が家の今があるのですから。

いこまちゃんは娘と同じ
大事な家族です

聴導犬いこユーザー 加藤隼子

二〇〇七年東京で聴導犬の講演会に初めて参加してみても興味を持ちました。私は、聴導犬がペット犬より音の覚えがいいのかとちょっと疑問も持ちました。友達に相談したり、パンフで調べたりして、長野県に日本聴導犬協会があると知りました。当時は、国民生活センターの部屋を借りて補助犬相談室をされていたので、手話のできる友人と話を聞きに行き面接を受けました。東京から、新潟県村上市に越してから二年がたちます。聴導犬はかわいしーズーの「いこまちゃん」。音の感覚が素晴らしい。FAX 玄関のピンポンタイマーの音などを教えてくれます。

はじめは、犬の気持ちが悪くせんわからず、経験も全くない状態でした。協会の訓練を受け、スタッフの励ましを受けながら試験を受け、見事合格！本当に嬉しかったです。まだまだ馴れないところもありますが、日常生活は大丈夫、問題なく快適です。

今年、長野県にアフターケアのために三日間行きました。三月十一日は村上に帰る日、新潟駅から村上行きの電車が出発してすぐひとつ隣の駅で地震が起きました。二時五六分でした。本当に



新潟県庁にも表敬訪問

怖かった。いままちゃんは寒さもあつて、ぶるぶる震えていました。電車は3そのまま四時間ストップ。夕方になりとても寒く、またその日は大雪でした。夜十時三十分によこ代行バスが出て村上の家には十一時過ぎに帰りました。その間、いままちゃんの手足が冷たくてとても心配になり、聴導犬は公共の場ではできるだけ抱っこしないことになっているので、協会に問合せのメールをしたらスタッフの方からすぐに抱っこしてくださいとお返事をいただきました。いままちゃんは大事な娘と同じです。

候補犬こんちやー 桑野た美
二月の認定試験に向けて、サインのこちやんとともに訓練中の桑野で

一緒にいるのが「フツワ」になってきました



桑野さんと聴導犬候補犬こんちゃん

です。デモをするこんちゃんと会ったのは一年前。私の書類準備に要した時間や自宅チマク、家族とこんちゃんのお見合い、相性が合うつか合わないなど訓練に入れたのは二〇一一年の五月です。早、七カ月が過ぎました。訓練当初は、音や歩行訓練ももちろんですが、生活のいたるところでもちくはく二人でした。しかし、今では「一緒にいるのが普通になってきました。こんちゃんの伝えたいと、私の伝えたいとがお互い言葉はなくてもだいたひ察せられるようになってきたと思います。これからも、少しずつでももつと気持ちを通じ合えるとうれしいです。二カ月後に認定試験を控えています。いまからそれを考えるとどきどきと心拍数が上がります。そ

んな小心者の私ですが、こんちゃんといつ心強いパートナーと一緒に頑張っていきたいと思えます。

三菱財団による「当事者による当事者のためのマニュアル創り」

全日本聴導犬ユーザーの会 事務局

聴導犬かるユーザー 村澤久実子

全日本聴導犬ユーザーの会の事務局に仕事を仰せつかり一年になろうとしています。今年度は、当事者による当事者のための聴導犬マニュアル制作のために、三菱財団様からご助成を頂くことができました。聴導犬を希望する方、考えている方の聞えな方達にわかるようにマニュアル本とDVDの作成にあたり、会員ユーザーの協力を得て撮影を行いました。完成を楽しみにしています。

聴導犬普及に(財)人権教育啓発推進セン

「全日本聴導犬ユーザーの会」の会員は4種類とします。
正会員により非営利種を促進します

- (1)正会員：聴導犬ユーザー及び元聴導犬ユーザー
- (2)賛助会員：聴導犬ユーザーの家族または育成団体関係者のみなさま
- (3)協賛会員：聴導犬ユーザーを支援する個人、団体、企業のみなさま
- (4)名誉会員顧問：この団体に功労のあった方または学識経験者であり、理事会において名誉会員として推薦された個人または団体であり、理事会への参加と助言を行うことができる。

附則

- 1.この規約はこの団体の成立の日から施行する
 - 2.この団体の設立当初の会費は、次に掲げる額とし、毎年10月1日までに支払う。
- (1)正会員 年会費 3,000円 入会金 3,000円
 - (2)賛助会員(個人・団体)年会費 5,000円以上
 - (3)協賛会員(個人・企業・団体)年会費5,000円以上

当会運営のために、ご寄付をいただければ、幸甚です。なにとぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

ターからの依頼で、栃木、和歌山、広島北九州でデモンストラクションと講演をさせて頂き、会場では自分には経験がない程、参加された皆様から記念写真を撮らせていただいたり、聴導犬についてお話をさせていただきました。このような機会が参加者のお一人でも多くのみなさまに聴導犬と聴覚障がいについて関心を持っていただき、理解につながると信じております。

毎年、たくさんいただくデモンストラクションのご依頼、本当に有難うございます。可能な限り聴導犬ユーザーを派遣し、実際の様子をご覧頂き、体験談をお聞きして頂きたく存じます。全日本聴導犬ユーザーの会では、聴導犬普及のために聴導犬ユーザーの方の結集を目的としています。全日本聴導犬ユーザーの会にご加入ください。詳しくは、村澤までお問い合わせをお願ひ申し上げます。

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会

News Letter No.5号



Email: iadpinasiya@hearingdog.or.jp http://www.hearingdogpartners.com
〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 7030-1 (福)日本聴導犬協会気付 「全日本聴導犬ユーザーの会」

発行人：岸本宗也
事務局：村澤久美子
編集手伝い：日本聴導犬協会
スタッフ
写真：◎MAYUMI
発行：年2回

事務局：〒399-4301
長野県上伊那郡宮田村 7030-1
(福)日本聴導犬協会気付

※無断転載・転用厳禁です

ユーザーの負担、軽減 沖繩の認定でけいちゃん「聴導犬」に

聴導犬まつユーザー 上原麻奈未

十二月十二日。投票ミスの後遺症が出てしまい引退する聴導犬まつ君の後継犬として、チワワのけいちゃんを聴導犬認定試験を沖繩で受けることができました。おかげさまで、合格でき、喜びの報告を申し上げます。みなさま、ご支援を本当にありがとうございます。

実は、沖繩や北海道など、本土から離れている地域での補助犬の貸与と認定試験には困難がいろいろあります。

たとえば、認定試験は沖繩からでは、通常、一番近くても兵庫県に行かなくてはなりません。バスや電車の訓練も兼ねるとすると松本電 鉄や伊那バスの協力を得ている長野県まで行くこととなります。さらに、以前は、認定前の候補犬は飛行機の貨物室での運搬になったため、(福)日本聴導犬協会では、まつ君の貸与(八年)前から航空会社に 候補犬の客席への同伴を繰り返しお願してきましたが、返事さえもらえない状況でした。今回は、JALが 厚生労働大臣指定法人の仮認定犬ならば、JALの審査後に搭乗を認める」との好意的な受け入れにより、小さなけいちゃんをフエリー(三十一時間)ではなく、飛行機で沖繩に入れることができました。また、沖繩での認定試験のために(福)日本聴導犬協会では、沖繩県障害者更生相談所のN様にお願いで、認定委員を現地でお願いできることができました。乗車訓練も東陽バス、沖繩モノレールの協力をお願いし、可能になりました。これらの環境改善を、ユーザーの負担をできるかぎり省くための努力を、協会

が一年前から行ってくれました。今の私は、母や父の介護があり、長野に容易に行けないので大助かりでした。協会のスタッフの皆様感謝するともに、まつ君、けいちゃんを、すばらしい聴導犬に育て上げてくれたご支援者やユーザーさんや学院生はじめ大勢の方々のご協力の元に、一人前の聴導犬になる事ができ、本当に深い愛情を感じると共に、感謝が絶えません。



▲上原様とけいちゃん、おめでとう！
認定試験に合格。聴導犬IDを授与。

認定合格できたのも、私をサポートし常に支えてくれる中学生の娘や、近くに住んでいる 妹も多忙な中さまさまなサポートを遂行してくれたおかげです。自宅訓練を遂行でき、無事に認定合格につながりました。心から感謝の意を表します。聴導犬普及のために、私にできる方法としては、聴導犬けいちゃんの絵日記「ブログ」を来年明けに始める予定です。けいちゃんの目を通した風景や出来事として1枚の絵で綴り、日々の暮らしや日々の鍛錬、そして聴導犬の楽しさや素晴らしさ、大変さを周囲に周知できたら、こんな至福はございません。

ちなみに、まつ君はけいちゃんの合格と共に引退表明いたしました。現在十二歳ですが、今後はけいちゃんと一緒に健やかにライフスタイルを送れるように精進を重ねてまいります。

「緊張しました。」 聴導犬デモを終えて

聴導犬あいユーザー 藤井 紀子

聴導犬あいちゃんと認定を受けてから十ヶ月が過ぎました。手話サークルの方と食事に行こうと、お店へ行つたのですが、そこで初めて同伴入店拒否をされました。サークルの方や、私が(福)日本聴導犬協会の「お客様マニュアル」を見せて説明しても、盲導犬同伴もすでに拒否しておりますので、聴導犬も拒否させていただきます」とあっさり断られました。ショックでした。まだまだ認知度が低いんだなと思いました。協会から後日指導を入れていただくことになりました。協会から、学校や保育園での行事などに頻りにアフターケアで来てくださって、いろいろご指導していただいています。こうやって、認定試験後も様々な状況での聴導犬のコントロールを教えてもらえること、いろいろ参考になるものばかりです。感謝しています。

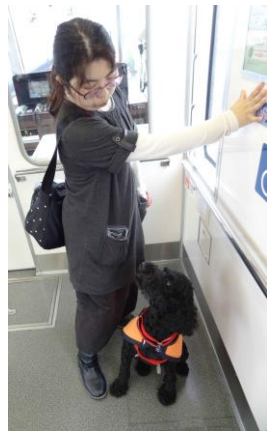
■デモ初心者！大阪、小倉で二度。 吹田での講演を終えて

まだまだ未熟……

一度目は、娘の小学校でした。娘が通う学校でもあり、あいちゃんに私の緊張が伝わったのか、いつになく落ち着きがなくて、ちよつとバタバタしてしまいました。もともと私は、人前に出るのはすごく苦手で、とても緊張します。

二度目は私の故郷・小倉です。前日に新幹線で小倉へ行きました。ホームや新幹線では皆さんに褒められるほど、落ち着いていました。夕方、私の友人が会場

▼あいちゃん、良い子ねえ



に、ろう者を中心に手配してくれた聴導犬に興味がある人を集めて頂き、小倉の会場でお話できて嬉しかったです。久しぶりの友人や通訳さんを前にしてやっぱ緊張してしまい・私は、落ち着かなかつたのですが、あいちゃんは上手にデモをしてくれました。一生懸命すぎて、ちょっとタッチが乱暴ですが、音の反応は素晴らしいかったです。三度目は、小倉駅前の大展示場です。大々的なイベント会場であいちゃんと私の話が伝わるか、とても不安で緊張がさらに増しました。私自身が、落ち着きがなく、あいちゃんも音を教えるのに、あわてて床で滑ってしまったり。その頑張っている姿が逆に、会場から笑いや拍手になっていました。落ち着かない私を、あいちゃんはなんとか、励まそうとしてくれていたようでした。帰りの新幹線も、落ち着いて息子と一緒に寝てました。連日なのですが、小倉から帰って次の日、吹田の手話サークルでのデモです。会場に行く時に、電車に間違えて乗り、人に聞いてやっと着きました。その時は時間ばかり気にし、あいちゃんのことをあまり考えずに、リードを引つ張ってしまったり、走ったり、焦ると良くないってわかってたのに、ひどい状況でした。

そのままの気持ちで、会場に入ったために、あいちゃんはおちとバタバタしましたが、私の講演では足元で落ち着いてくれました。デモはいつもの一所懸命過ぎて、会場が曇ったので滑ったり、転びそうになっ

り。バスの帰りも、そのままの焦りが残っていて、スタッフの方に指導を受けました。四回のデモを通して思ったことは・・・ユーザーは、焦らない、慌てない。ユーザーの気持ちのまま聴導犬の行動に反映するので、私が落ち着きをもつてきちゃんと行動するのが一番大事なんだなと思いました。講演やデモはまだ未熟ですが、家の中の音も、道では後からの車の接近を教えるなど、私の命までも守ってくれています。どんどん、講演会での経験を積んで、皆さんに聴導犬のすばらしさをあいちゃんと、伝えられるように一層頑張っていきたいと思っています。応援しく願っています。

ひきこもり状態から、
十回ものイベント参加

聴導犬ユーザー 桑野 仁美

2012年は、私の人生の中でも極めて印象深い年となりました。聴導犬と出会う前は、急激な聴覚の失聴により、ひきこもりにちかいかい状態となっていました。それが、2月に身体障害者補助犬認定に候補犬（こんちゃん）と共に合格して以来、協会関連のイベントに十回前後参加させていただきました。

当時、PR犬だったこんちゃんとの出会いの場である東京都聴覚障害者連盟主催の「耳の日記念文化祭」にも協会スタッフと



▲英国大使館にて

んたちと参加させていただきました。私は中途失聴の上、まだまだ手話で会話できるレベルにありませんが、スタッフさんや周りの方々の助けでいろいろな方とお話しできました。

初夏には（福）日本聴導犬協会のADII（国際アシスタンス・ドッグ協会）の再認定試験で、ユーザーとして面接試験を受けた。7月の東京事務所でのユーザー希望者さんへの説明会で、失聴後まもなくの自身の体験談をお話ししました。秋には（福）日本聴導犬協会がお世話になっているARR理事長エリザベス・オリバーさんが、英国エリザベス女王より「大英帝国勳章MBE」の受勳祝賀会にも聴導犬あいちゃんのユーザー・藤井さん夫妻と出席させていただきました。こんちゃんは、ARRから譲渡いただいた子なので、私たちが祝賀会にお招きされました。十月には地元埼玉での「おれあいフェスティバル」では、デモンストレーションのお手伝いをさせていただきました。中途失聴などの私の体験談をお話しさせていただく機会も恵まれ、同じような待遇の方への理解を呼びかけました。

■こんちゃん、外でも大活躍

日常生活では、家の中の音をみならず、外出先でもこんちゃんは活躍してくれます。失聴当時は一人での外出もままならなかったのですが、今ではこんちゃんと一緒にどこでも行けます。なぜならさまざまな音では構内アナウンスがかかるたびにタッチして教えてくれますので、電車がホームに入ってくるのがわかるようになりました。

銀行では、こちらから聴覚障害者のことを話す前に行員さんがこんちゃんをみて身振りや筆談などで対応してくれたこともありました。反対に2度ほど同伴拒否にもありました。しかし、（福）日本聴導犬協会の同伴への店側への説明後は、こんちゃんが聴導犬であることを理解し、みなさん笑顔で迎えてくださいます。聴導犬についての知名度もまだまだ低いですが、日本聴導犬協会のアフタケアーの徹底などにより、ユーザーも努力してどんどん社会に受け入れてもらえるようにいきます。おかげで、少しずつ知ってるよ」という声も聞こえるようになっていきました。聴導犬こんちゃんとともに歩いていきたいと思います。

「全日本聴導犬ユーザーの会」

◆ 会員は4種類とします。

正会員により非営利活動を促進します

- (1) 正会員：聴導犬ユーザー及び元聴導犬ユーザー
- (2) 賛助会員：聴導犬ユーザーの家族または育成団体関係者のみなさま
- (3) 協賛会員：聴導犬ユーザーを支援する個人、団体、企業のみなさま
- (4) 名誉会員顧問：この団体に功労のあった方または学識経験者であり、理事会において名誉会員として推薦された個人または団体であり、理事会への参加と助言を行うことができる。

◆ 附則

- 1. この規約はこの団体の成立の日から施行する
- 2. この団体の設立当初の会費は、次に掲げる額とし、毎年10月1日までに支払う。
- (1) 正会員 年会費 3,000円 入会金 3,000円
- (2) 賛助会員(個人・団体) 年会費 5,000円以上
- (3) 協賛会員(個人・企業・団体) 年会費 5,000円以上

※当会運営のために、ご寄付をいただければ、幸甚です。なにとぞ、よろしく願い申し上げます。

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会 News Letter 9号



HP: <http://www.hearingdogpartners.com> ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/iadpinashiya>
Fax: 0265-85-5088 Tel: 0265-85-5290 E-mail: iadpinashiya@hearingdog.or.jp
〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 7030-1 (福) 日本聴導犬協会気付 「全日本聴導犬ユーザーの会」

「全日本聴導犬ユーザーの会新聞」

発行人: 岸本宗也
事務局: 村澤久実子
編集手伝い: 日本聴導犬協会
スタッフ
写真: ©MAYUMI
発行: 年2回

事務局: 〒399-4301
長野県上伊那郡宮田村 7030-1
(福) 日本聴導犬協会気付
※無断転載・転用厳禁です

▼村上市長表敬訪問



▲全日本聴導犬ユーザー会員と聴導犬

聴導犬いこま&加藤 準子
空日本聴導犬ユーザーの会」の岸本会長とメンバー四名と共に、村上市長への表敬訪問をしました。これは、私が暮らす村上市で「同伴拒否」が多く、私の環境を改善するためにメンバーが力を借してくれたのです。これまで、村上市内で、たくさんのお店やお店などで同伴拒否を受けました。そのたびに、日本聴導犬協会作成の「補助犬受入れマニュアル」を見せて説明します。それでも拒否されたら、協会に依頼して電話で説明してもらいました。改善してくれる店もあります。拒否し続けるなら、協会から新潟県庁へ補助犬受入れの指導をしてもらいます。

「同伴拒否」改善に、メンバーが力添え

しても拒否。県庁からの指導も受入れません。有馬会長が「これは変だ」と、その後かたくなだったホテルに5度電話を入れてやっと理由が聞けました。大型の補助犬が泊まり、退室した後で、臭いと毛がひどく、その上、茶器の破損もありました。もう、補助犬は泊めたくない」との理由でした。有馬会長は「(福)日本聴導犬協会の聴導犬ユーザーさんはマナーが素晴らしい。絶対に、大丈夫ですから試しとと思って泊めてください」とお願いし、結局五頭の聴導犬が泊まった後は「すばらしいマナー。大人しい。また泊まりに来てください」となりました。一人ひとりのユーザーが証明していかななくてはなりませんね。盲導犬は知られてますが、聴導犬は数も少なく、理解も乏しいです。あまりに同伴拒否が多いと、買物や旅行にも行かなくなります。

先日、聴導犬いこまちゃん、寝ている私に雷を教えてくれました。ものすごい雷だったようです。日本聴導犬協会の聴導犬は、音だけでなく、周囲の異変を教えるように訓練されています。安心です。周囲の火事や事故も教えてくれるでしょう。こんな聴導犬の働きについても空日本聴導犬ユーザーの会」とがんばってつとPRしていきます。



▲只今、歩行訓練中
水口さん&聴導犬候補犬ぎんちゃん

「聴導犬ユーザーになる」ということ
聴導犬候補犬ぎん&水口侑季
初めまして、聴導犬候補犬ぎんちゃん(ミディアム・プードル)のユーザー候補の水口(みなくち)です。私は生まれつき聴覚に障がいを持っています。聴導犬のことはろう学校の小学部の時にデモを見て知っていました。

私には結婚して一年の主人がいますが、主人も聴覚に障がいを持っています。しかし、主人は聴導犬のことは知らないようでした。そこで聴導犬のことを説明したら、聴導犬との生活に賛同してくれました。しかし、聴導犬はまだ認知度が低いので、聴導犬を連れて今まで利用していた施設に入りに出来なくなりました。また、私たちは現在、社宅に住んでいるのですが、周りの方のご理解を得られるのかという点も不安でした。

を終え、社宅での聴導犬受け入れ準備のため、今年の十月に社宅の自治会の方に、私たちの聴覚障がいと聴導犬について説明させていただく機会を頂きました。そのために有馬会長とごんちゃんも私たちの社宅に来てくださいました。その結果、自治会長から「聴導犬の同伴について全面的にバックアップします」とお返事を頂くことが出来ました。また、日頃よく利用している近所のスーパーや交通機関に、聴導犬についてのご理解を頂くよう協会スタッフが同行して、説明をしてくださいました。私たちが聴導犬を導入するにあたって感じていた不安が少しずつ無くなり、同時に、ユーザーになった後もこのように周りの方に説明をし、理解を得て頂くようにすればいいのだと大変勉強になりました。

聴導犬はまだ盲導犬、介助犬と比べて認知度が低く、認知度を上げていくためには、やはり身近な方からご理解を頂くように努めなければなりません。私は現在訓練中で、ごんちゃんと共に聴導犬の認定試験を受けることになりました。そして、聴導犬ユーザーになった後は、聴導犬に対する社会からの信頼を損ねないよう、ユーザーの権利だけでなく、義務も果たしていきます。まだまだ未熟な私ですが、今後みなさまからの応援をお願いいたします。

▼地下鉄も平気！聴導犬ごんちゃんとなら



聴導犬が
「おしえる音は無量大」

聴導犬ごん&桑野 仁美

わたしは中途失聴ですので、以前は音のある生活が当たり前でした。左耳から聴力を失い、右耳の聴力もわずかになってしまいました。聴導犬ごんちゃんとの生活が始まって一年近くなりました。聴導犬の教える音は無量大と聞いていましたが、当初はキッチンタイマーの音で代用していた、洗濯機や電子レンジ、給湯ポット、お風呂の給湯音などの各々異なった終了音は、特に訓練せずに自発的に教えてくれるようになりました。しかし、昨年そのほとんどが壊れ、順次買い替えを迫られました。使いやすさなどを考慮するとどうしても以前のものとはメーカーが異なってしまう。音が違ってしまいう「物も出てきました。洗濯機やお風呂の給湯の音が変わった時には不思議そうな

2002年8月創設「全日本聴導犬ユーザーの会」

- ◆ 会員は4種類とします。
正会員により非営利団体を促進します。
- (1) 正会員： 聴導犬ユーザー及び元聴導犬ユーザー
- (2) 賛助会員： 聴導犬ユーザーの家族または育成団体関係者のみなさま
- (3) 協賛会員： 聴導犬ユーザーを支援する個人、団体、企業のみなさま
- (4) 名誉会員顧問： この団体に功労のあった方または学識経験者であり、理事会において名誉会員として推薦された個人または団体であり、理事会への参加と助言を行うことができる。

- ◆ 附則
 - 1. この規約はこの団体の成立の日から施行する。
 - 2. この団体の設立当初の会費は、次に掲げる額とし、毎年10月1日までに支払う。
 - (1) 正会員 年会費 3,000円 入会金 3,000円
 - (2) 賛助会員(個人・団体) 年会費 5,000円以上
 - (3) 協賛会員(個人・企業・団体) 年会費 5,000円以上
- ※ 当会運営のために、ご寄付をいただければ、幸甚です。なにとぞ、よろしく願い申し上げます。
- 振込先： ゆうちょ銀行
全日本聴導犬ユーザーの会
11130 38434961

顔をしていたごんちゃんですが、数日経つとタッチして音源に導いてくれるようになりました。

外出先で大変助かるのは、ホームで電車を待っている際にアナウンスがかかるタッチしてくれるようになったことです。このタッチのおかげで、ホームに一人でいても事前に電車が入ってくるのわかるようになり、安心して電車を待つことができるようになりました。

また、ごんちゃんはタッチの仕方も工夫してくれました。体高20センチのシーズーであるごんちゃんに、合わせたようにわたし自身も小学生並の小さめですので、座っているときなどごんちゃんに正面からタッチされるとそのままひっくり返りそうになりました。実際によるめいてしまったこともあります。ごんちゃんはそういったことをきちんと覚えていて、正面に座つ

▼「家族です！」



ているときには膝にちよこんと足をのせタッチをしたり、わざわざ背中に戻ってタッチしてくれたりします。

音を覚えることもそうですが、わたし自身(の生活)に何が必要なのか、考えて行動してくれているようです。

失聴して四年経ちました。その半分以上の時間をごんちゃんと一緒に歩むことができて本当に幸せだと思えます。聴こえない「自分を受け入れること」ができたのもごんちゃんと家族のおかげだと思えます。感謝です。

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬ユーザーの会 News Letter 11号



HP: <http://www.hearingdogpartners.com> ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/iadpinashiya>
Fax: 0265-85-5088 Tel: 0265-85-5290 E-mail: iadpinashiya@hearingdog.or.jp
〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 7030-1 (福) 日本聴導犬協会気付 「全日本聴導犬ユーザーの会」

「全日本聴導犬ユーザーの会新聞」

発行人: 岸本宗也
事務局: 村澤久実子
編集手伝い: 日本聴導犬協会
スタッフ
写真: ©MAYUMI
発行: 年2回

事務局: 〒399-4301
長野県上伊那郡宮田村 7030-1
(福) 日本聴導犬協会気付
※無断転載・転用厳禁です

▼財務省宮下副大臣(左)と岸本会長



延べ三七〇名をお迎えできた
全国身体障害者ほじょ犬サミットに
全日本聴導犬ユーザーの会会長
聴導犬しんユーザー 岸本宗也
2015 全国身体障害者ほじょ犬サミットに、松本(六月二〇日二一日)は長野県ハーネスの会と全日本聴導犬ユーザーの会の共催と、日本聴導犬協会の協力により開催され、二日間で開催されました。国会開催中にも関わらず財務大臣宮下副大臣や国会議員のみならず、厚生労働省副大臣永岡桂子様からは、祝辞も頂戴できました。心より感謝申し上げます。準備と運営に寄与いただいた松本市ボランティアの方々。遠路お出ましく

ださいました日本中、中部盲導犬協会、大阪、動物海洋専門学校のみならず、まに御礼を申し上げます。また、事務局として開催後も事務整理で追われる日本聴導犬協会に深く、感謝申し上げます。
予約では百五十名前後だったほじょ犬サミットは当日参加を含め二十四名(うち、聴導犬ユーザー八名、介助犬ユーザー一名、盲導犬ユーザー三二名、計四十名)。五つの育成団体からの関係者八名も分科会に参加するなど、希望の情報交換の場になりました。次の日のほじょ犬とほじょ犬応援犬パレードでは参加者百五六名(聴導犬ユーザー八名、介助犬ユーザー二名、盲導犬ユーザー二三名、計三三名)の参加でした。補助犬ユーザ

▼サミット総会には 214 名の参加



「(当事者)によるユーザー自身とほじょ犬希望者、そして補助犬を取り囲む環境の改善に向けて、当事者が発言し、自ら行動していく」と、ほじょ犬サミット」の使命です。
今回は、第一回ということもあり、至らないことも多かったのですが、ご温情を賜りましたみなさま、なにとぞ、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



▲ほじょ犬パレードには、156名参加

ぎんちゃん、聞こえない音に気づかせてくれた

タンDEM聴導犬ぎんちゃん
ユーザー 水口貴稔

聴力は両耳 百日程度ですが、補聴器の装用で、ある程度コミュニケーション

が取れます。社会人になってから練習して電話も出来るようになりました。

そのため、「聴覚障がいがあつても補聴器さえあれば、そんなに困ることはない」と思つておりました。

二年前に妻から「聴導犬ユーザーになりたい」と話があつた時、聞こえる自分がそばにいるのに何を言い出すのだろうと思ひました。しかし、補聴器を外して寝ている間に災害が起きたら非常ベルに気付けない。周りの方に聴覚障がいに気付いてもらいにくく、サポートが得られにくいなど、私が気づかなかつた問題を妻から知らされ、己の障がいにもう一度向き合うことになりました。

妻は、日本聴導犬協会での滞在訓練を経て、去年十一月から当時は候補犬だったぎんちゃんとの自宅訓練が始まりました。ぎんちゃんはすばらしく優秀で、冷蔵庫が開きっぱなしの音、洗濯が完了した洗濯機のお知らせ音など「そんな音もなつていたのか」とそれまで夫婦だけでは気づかなかつた音を妻や私に教えます。日中は一人きりで過ごす妻にとっては、安全でリラックスできる生活が得られました。私は、補聴器だけでは聞き取れない音もあると再認識しました。何よりもびびくりしたのは外出時です。聴導犬の同伴で、周りの方が妻の聴覚障がいに気付き、多くの方が笑顔で話しかけてくれます。中には「少し手話が出るの」と照れくさそうに

「こんにちは」と手話での挨拶をされる方まで。これは、私が体験しなかつたことです。外に出たら人混みや騒音の中で、話しかけられて困つた経験ばかりの私には、とても新鮮で嬉しい体験でした。妻は協会の指導で聴導犬ユーザーとして今年二月、認定試験において好成绩で合格。このように聴導犬の效用と生活の変化を目の当たりにした私は「自分も聴導犬ユーザーになりたい」と思い、協会に相談しました。

会社勤めなので、協会では土日や連休を利用する特別な訓練スケジュールを立て、厳密なユーザー指導のおかげで今年十月にタンDEM(二名で一頭の補助犬を活用する)聴導犬ユーザーとして認定試験に合格できました。

聴導犬がもたらす安全な生活と、趣味の旅行にもぎんちゃんを同伴するの

で安心して宿泊ができます。聴導犬は他の補助犬に比べると知名度が低く、公共施設や乗り物で同伴拒否もしばしば受けます。環境改善のためにも協会と共に聴導犬普及活動を行つてゆきます。



▲松本城の前。ほじょ犬パレード記念撮影

なつた後の「同伴拒否」と共に、ユーザーになる前に行政窓口での「聴導犬のことは自分で調べなさい」といった「相談拒否」も問題に上がります。解決しなければならぬ課題に向かつて「全日本聴導犬ユーザーの会」の結集力とともに、行政や育成団体と話し合いながら、みなさまの共感を得られる解決策を模索していきます。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

二〇二〇年の東京オリンピック&パラリンピックまでに補助犬ユーザーの力で、環境改善を進めていきたい。ご支援をお願い申し上げます。詳しくは、全国身体障害者ほじょ犬サミット事務局(日本聴導犬協会 担当:奥嶋・松澤) 電話0265・85・4615&5290 ファックス0265・85・5088 振込先:郵便局00560789971 全国身体障害者ほじょ犬サミット実行委員会

「全日本ユーザーの会」会員募集

◆この団体の設立当初の会費は、次に掲げる額とし、毎年十月一日までに支払う。

- (1)正会員 年会費 三千元 入会金三千元
 - (2)賛助会員(個人・団体)年会費 五千元以上
 - (3)協賛会員(個人・企業・団体年会費) 五千元以上
- ※当会運営のために、ご寄付をいただければ、幸いです。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

※会費やご寄附は、ユーザー新聞九千部印刷と発送費用の一部、会員の環境改善、ロビーイング(陳情活動)などに使われます。経理報告は、理事会の承認を得て、年一回報告されます。

サミット(討論会)をステップに、 さあ、第二弾では実践につなぐ

全日本聴導犬ユーザーの会事務局
聴導犬かるユーザー 村澤久実子

サミットでは、「全日本聴導犬ユーザーの会」メンバーの聴導犬ユーザーたちが全国から集まり協力を頂けましたこと深く感謝申し上げます。現在、各地での聴導犬デモンストラシヨンの見学を機に「聴導犬ユーザーになりたい」という希望者が増え、私共聴導犬ユーザーにとつては嬉しい日々です。

聴導犬は全国で六十頭前後。頭数が増えてはおりますが、ユーザーに

▲認定試験当日